

項目	これまでのWGでの主な意見		対応方向 (事務局の考え)
	検証(現行ビジョンへの意見)	今後の方向性(次期ビジョンへの意見)	
人口動向	—	<ul style="list-style-type: none"> ○核家族世帯が減少、単独世帯が増加しているなど近年の人口動態のトレンドを踏まえたデータの追加が必要ではないか。 ○地域ごとに状況が分かる必要があるのではないか。 ○地域別の外国人人口動態や在留資格別の流入を可視化することが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○未婚化が進んでいることを示すデータや世帯数や世帯構成割合の推移など近年のトレンドを踏まえたデータを追加する。 ○道内6圏域の人口動態データも可能な限り追加する。 ○人手不足や外国人の増加を踏まえたデータを追加する。
将来人口推計と影響分析	—	<ul style="list-style-type: none"> ○近年は世帯の構成割合も変化してきているので、世帯の状況を把握して対策を打つことが必要。 ○地方部の人口減少が続いているところでは今後75歳以上の人口が特に増えていく傾向にあり、住民自治、地域運営などに大きな影響を与えるのではないか。 ○日本人と外国人を分けて推計することで、より地域の状況を把握できるのではないか。 ○社人研推計を基準にして、このままだと地域や社会が持続できなくなるという状況を示し、発想の転換を促す人口ビジョンとした方が、効果があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世帯に係る推計データを追加する。 ○道内市町村の75歳以上人口(実数・割合)の推計を可視化する。 ○人口減少が地域の将来に与える影響の分析・考察として、次の分野などについて将来推計を行う方向で検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て、教育 ・医療、介護 ・インフラ、公共交通 ・空間管理、防災 ・労働力 ・産業、テクノロジー ・行財政 ・地域コミュニティ ○社人研でも十分なデータが存在しないため日本人、外国人別の推計値はないとしていることから推計は困難。 ○可能なものについては、圏域別や人口規模別での推計も検討する。
人口の将来展望	○2040年に出生率が人口置換水準(2.07)まで上昇や人口移動が均衡するという仮定は非現実的ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ○社人研推計を基準にして、このままだと地域や社会が持続できなくなるという状況を示し、発想の転換を促す人口ビジョンとした方が、効果があるのではないか。 ○発想の転換をすれば、明るいものが見えてくるという方向性を出せれば、深刻さだけでなく、若い人たちが結婚してみようかと思ってくれることもあるのではないか。 	○社人研に準拠した推計をベースに、自然動態や社会動態の条件が変わった場合の推計も示す方向で進め、推計期間や条件の設定についても検討していく。